

視 察 報 告 概 要

1 視察日時

平成30年11月13日（火） 午後2時から午後3時30分まで

2 視察先及び視察事項

鳥取県境港市

「水木しげるロードにおける地域活性化の取り組みについて」

3 視察の目的

本市では現在、本市と株式会社KADOKAWAが共同プロジェクトとして取り組んでいる「COOL JAPAN FOREST構想」を推進するため、株式会社KADOKAWAが建設する拠点施設を中心とした半径500m圏内について、「みどり・文化・産業が調和した地域づくり」を進めるための施設整備や周辺環境整備、交通アクセスの構築などを2020年までに行うものとしている。

今後は国内外からの観光客を誘致するため、観光コースの設定や案内看板の設置など、受入れ体制の整備にも取り組んでいくことから、境港市における国内外から多くの観光客が訪れ全国的な観光地となった「水木しげるロード」や拠点施設の「水木しげる記念館」での地域活性化施策の成功事例について視察し、今後展開する地方創生の取り組みに関する認識を共有して、委員会審査など種々参考にするため、視察を行った。

4 視察の概要

境港市の水木しげるロードにおける地域活性化の取り組みに関し、概要説明を受け、質疑応答を行った。

<概要説明>

境港市議会事務局長のあいさつの後、境港市産業部参事兼通商観光課長から概要説明があった。

【概要】

平成30年7月、水木しげるロードは誕生25周年でリニューアルオープンをした。妖怪ブロンズ像が177体並び、歩道が広くなり、ゆったりと散策を楽しめるようになった。

妖怪ナイトストリートということで、毎晩日没から午後10時まで歩道、車道にライトアップを行っている。影絵があらわれたり、BGMが流れたり、今まで夜に少なかった観光客を呼び込むことに成功し、昨年と比較すると6割増となっている。

水木しげるロードは、平成元年、緑と文化のまちづくりの市政を展開したことで始まった。水木しげる先生が境港市出身だということで、閑古鳥の鳴いていた商店街をにぎわすべく、鬼太郎のオブジェ等を並べて町の活性化をスタートさせた。

事業実施期間は平成4年から平成8年、総事業費は4億4千万円、整備内容は駅から記念館までの800メートルだった。平成5年の妖怪ブロンズ像はわずか23体でスタートした。当時、商店街からは、店の前に妖怪ブロンズ像を置くのは気味が悪い、といった意

見もあったが、スタートしたところ、観光客の増加等、大きな反響があり、25年かけて今に至るものである。

観光客の入込客数はテレビの影響が非常に大きく、平成22年NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」により、その年は過去最高の370万人の観光客が訪れた。近年では入れ込み客数は徐々に減ってきており、年間200万人前後となっている。

将来にわたって継続的、安定的に集客を維持するために、4年半の構想を経て、水木しげるロードのリニューアルを行った。

キャラクターの着ぐるみが11種類あり、臨時職員や正規職員、観光協会の職員が務めており、記念写真を撮るなど観光客の楽しみの1つとなっている。

水木しげる記念館は水木しげるロード関連事業の集大成であり、15周年を迎えた。総事業費は4億8,000万円、年中無休で営業している。入館料は一般700円で、年間約1億円の入館料収入があり、運営費(人件費、維持管理費)で約5,000万円のため、毎年5,000万円、6,000万円の黒字である。市の直営施設でこれほどの黒字は全国でみても稀であり、境港市の貴重な財源となっている。

民間等による取り組みとして、水木しげるロード振興会は商店街の集まりであるが、中心となってイベントを定期的で開催している。また、JR境線では「鬼太郎列車」、郵便局から許可を得て設置された「妖怪ポスト」などがあり、境港から隠岐の島をつなぐフェリーは「鬼太郎フェリー」として鬼太郎が描かれたものがある。

また、境港駅前交番は鳥取県警の発案により、「鬼太郎交番」と愛称がつけられた。看板に目玉のおやじの電灯がつくなど、工夫をされており、町全体で妖怪の町として取り組んでいる。

妖怪のブロンズ像は1体約100万円で、当初、市が直でブロンズ像を作成していたが、現在はスポンサーを募集し、日本中の妖怪ファンから手が挙がり、その方々が作成費用を出し、市に寄付するようになっている。像には寄付者の名前が彫られる。

境港市単独で観光を成り立たせるのは難しいため、出雲大社のある出雲市、松江城のある松江市や、安来市、米子市といった周辺の市町と協力している。観光客には周遊していただくことをイメージし、中海・宍道湖・大山圏域市長会が設立され、5市で連携しながら、いろいろな観光事業、外国語表記などについても一緒に取り組んでいる。

【質疑応答】

質疑：水木しげる記念館の事業で年間約5,000万円の黒字ということだが、地域の経済波及効果がどれぐらいあるのか。また、商店街には地元外の民間業者はいるのか。

応答：商店街は高齢化が進んでいるが、空き店舗はない状況である。自宅の前や空き地に仮テントを立てて店として貸し出す等、地元の人ではなく、近隣のお店もやってくることはあるが、大体が昔からの商店である。経済波及効果としては、鳥取県が試算しているが、インバウンドで交通機関の利用などもあり、約200億円とされている。お土産だけでも1人1,000円として観光客200万人とすると単純計算で20億円であるし、大体1人3,000円程度使うので、お土産物の売り上げだけでも相当ある。宿泊が一番お金を落とすものだが、このあたりの観光客は米子の駅前や皆生温泉等に泊まるので、通過型の観光だった。境港駅前にホテルができたことによって、滞在型

に徐々に変わってきている。インバウンドも増加しており、航空便やクルーズ客船も増便されている。海外からみて魅力があるということで、インバウンド対策も課題の1つとなっている。

質疑：スタート時、年間約1億円の予算をかけるというのは思い切りが必要だったと思うが、失敗するかとか考えはあったのか。

応答：当時は、国がふるさとづくり事業について交付税を出して、どんどんやれというような時代だった。ふるさとづくり事業に加え、鳥取県西部地震の影響もあり、借金を大きく抱えた。

質疑：当時、地元で反対の声はなかったのか。

応答：商店街でいろいろな声はあったが、実際に始まってみたら、逆にうちの店の前にも置いてもらいたかった、などの声に変わった。

質疑：ロードのリニューアルにかけた予算はいくらか。

応答：基本構想から工事完了まで約4年間で約13億円となっている。道路拡幅、照明演出などが含まれる。

質疑：ブロンズ像は一般の寄付金を集めてつくったが、それ以外の電柱地中化、アーケードの撤去、いろいろあると思うがそれは全て市の予算なのか。

応答：県道部分もあるので、市は約10億円である。国からの補助金も半分程度あった。電柱の地中化は、昭和レトロな街並みにしているため行っていない。

質疑：Wi-Fiは577万8,000円とあるが、これは毎年の費用なのか。

応答：水木しげるロードのWi-Fiは、防災の補助金を活用し市が設置した。毎年の使用料は100万円程度である。

質疑：キャラクターグッズのロイヤリティはいかがか。

応答：水木プロダクション中国支部が境港にあり、お土産には全て水木プロのマークが張ってある。通常の著作権よりは安くなっており、3%程度である。

質疑：市でキャラクターを使用するロイヤリティについてはいかがか。

応答：水木しげる記念館の入館料の10%は水木プロに払っている。

質疑：ホテルの誘致は、駅前のホテル以降、新しいものはないのか。

応答：もう1つ建てても儲からないのではないかとということである。駅前のホテルは予約が取りにくいほど、はやっている。

質疑：外国人観光客がふえたことによって、犯罪がふえた等はあるか。

応答：外国人は、もともと境港は水産の町で、人材不足のため外国人の研修生などを多く受け入れており、なじみがある。ただ、マナーが悪い観光客もおり、清掃等の作業がふえた等があった。

質疑：ブロンズ像が盗まれた際に、監視カメラはつけずに保険をかけたといったことが本に載っていたが、今でもカメラについては設置していないのか。

応答：商店街が防犯カメラを設置し管理している。ブロンズ像への保険は市がかけている。

質疑：人口3万人の市に200万人の観光客が訪れているが、受け入れ体制はどうやっているのか。今後、高齢化した商店街に市として手立てはあるのか。また、回遊性についての話を伺いたい。

応答：体制として、水木しげるロードのハードの整備を市が行ったので、あとのソフト面

は民間で行ってもらおうというのは、伝えている。

質疑：市としての援助はないのか。

応答：商店街の集まり、会には職員も参加している。ロードのリニューアルに際し、店のリニューアルには補助金を出した。回遊性の話だが、出雲大社や松江城は昔からの観光地で歴史があり、境港はここ20年ほどの急造の観光地であるため、出雲大社などで神様にお参りをされたあと、妖怪に会いに寄ってもらえればと思っている。

質疑：外国人観光客の国の内訳と、訪日外国人観光客のための対策で、言語の対応、対策で効果があったものなどがあれば伺いたい。

応答：香港便とソウル便があるため、水木しげる記念館だけで言えば、台湾、香港、韓国の方が多く来る。タクシー会社は外国語に対応できるようにしており、商店街も外国語表記で、英語、中国語、韓国語、ロシア語に対応するようにしている。

質疑：民泊やゲストハウスといった取り組みはあるのか。

応答：水木しげるロードの近くにはゲストハウスが3つある。旅籠屋も1つあり、民泊についても境港市内でふえている。民泊の許可など管轄は県なので、市としては情報を受けて、紹介するなどしている。

質疑：商店街は何時まで営業しているのか。妖怪ナイトストリートは夜10時までとのことだが、周辺住民の反応はいかがか。

応答：夜のにぎわいについては課題である。商店街は午後6時には全て閉店している状況だったが、ロードのリニューアル後は、夜の営業店がぼちぼちふえている。夜の照明については、周辺からの声に対応するようにしている。

質疑：駅前からの通りに飲食店が少ないように思うが、いかがか。

応答：それは昔からの課題である。食事処については水産業界に呼びかけたりもしているが、なかなか難しい。タクシーの運転手も、駅前でお客さんを乗せて昼食はどこがよいかと聞かれたら、駅前通りではなく海岸の方に連れて行ってしまおうというような状況である。

質疑：建築規制はされているのか。

応答：消防法とかでいろいろとあり、以前はずらりとアーケードで上を覆っていたのだが、耐震基準に合わないということで、リニューアルで取り払っている。

質疑：意匠はチェックしているのか。

応答：商店街ごとに専門家を入れて、こういうふうにやりたいということで統一した方向で行っている。

質疑：鬼太郎がマグロに乗っているイラストや、ターバンを巻いた鬼太郎のイラスト等が見かけられ、キャラクター使用の規制が緩いように感じたが、水木先生か水木プロが寛容だったのか。

応答：水木先生が寛容だったため、緩かった。先生の死後、厳しくなっている。

質疑：水木プロと民間の商売をしている方の、役所や観光協会は仲立ちをされているのか。

応答：このあたりの商店街の方は、水木プロダクション中国支部と直接やりとりを行っている。

質疑：水木しげるロードで、地域外の人で店舗を構えたいと入ってくる人はどれぐらいいるのか。空き店舗はないということだったが、いかがか。

応答：商工会議所には問い合わせがあるようである。

質疑：貸店舗ではなく、オーナー自身が経営しているのはどれぐらいか。

応答：店が並んでいるというよりは、もともとが自宅で、1階をお店として改装していたり、お店の奥が住居となっていたりするので、8割程度はオーナー自身の経営である。

質疑：お客さんの滞在時間はどれぐらいなのか。

応答：リニューアル前は短かったが、最近は少し延びてきている。妖怪ナイトストリートも功を奏していると思う。本当に鬼太郎作品が好きなファンは、ブロンズ像177体全てを写真に撮ることもある。

5 所感

鉄道や交番、郵便ポスト、防犯灯等細部に至るまで、徹底的に鬼太郎の世界に基づいたまちづくりを行っている。この「徹底さ」は参考に値する。

インバウンド獲得のための広域連携についても印象的だ。市県域を超え、各市の特色を生かして物語を設定する等、回遊性確保のために大変努力されていた。

視 察 報 告 概 要

1 視察日時

平成30年11月14日（水） 午前9時30分から午後12時まで

2 視察先及び視察事項

鳥取県境港市 現地視察

（水木しげる記念館、水木しげるロード）

3 視察の目的

本市では現在、本市と株式会社KADOKAWAが共同プロジェクトとして取り組んでいる「COOL JAPAN FOREST構想」を推進するため、株式会社KADOKAWAが建設する拠点施設を中心とした半径500m圏内について、「みどり・文化・産業が調和した地域づくり」を進めるための施設整備や周辺環境整備、交通アクセスの構築などを2020年までに行うものとしている。

今後は国内外からの観光客を誘致するため、観光コースの設定や案内看板の設置など、受入れ体制の整備にも取り組んでいくことから、境港市における国内外から多くの観光客が訪れ全国的な観光地となった「水木しげるロード」や拠点施設の「水木しげる記念館」での地域活性化施策の成功事例について視察し、今後展開する地方創生の取り組みに関する認識を共有して、委員会審査など種々参考にするため、視察を行った。

4 視察の概要

境港市の水木しげるロードにおける地域活性化の取り組みに関し、水木しげるロード、水木しげる記念館での現地視察を行い、概要説明を受けた後、質疑応答を行った。

<概要説明>

境港市観光協会の担当者から概要説明が行われた。

【概要】

妖怪ガイドブックを作成、販売しており、ガイドブックには177体の妖怪についてどんな妖怪であるのかプロフィールが記載されている。ガイドブックは妖怪スタンプラリー台帳となっており、水木しげるロード内にあるスタンプを集め、集めた数によって記念品が駅前にある観光案内所でもらえる仕組みとなっている。

妖怪ガイドブックは現在111万部販売しており、観光協会の貴重な収入源である。観光協会は市町村からの交付金で賄うところが多いが、境港市観光協会はこのような自主財源があるため、自由な方針をある程度反映させて活動することが可能となっている。

年に1回、境港市観光ガイドマップを発行しており、水木しげるロードはもちろんのこと、漁港がある港町であることや、おまつりのことなど、境港市の大体のことはわかるように作成されている。

観光協会の事務局は、夢みなとタワーの1階にある。高さ43mで、全日本タワー協議

会から「日本一低いタワー」として認定されている。夢みなとタワーは1997年に開催された「山陰・夢みなと博覧会」を機に建設された。博覧会には200万人の入場者数があり、鳥取県の人口は60万人を切るため、人口の3倍近い入場者数となった。

境港グルメマップは、ことし7月にリニューアルした水木しげるロードが、夜にライトアップをするようになったため、夜に開いているお店がわかるように作成した。

ライトアップした妖怪ナイトストリートは、毎晩日没から午後10時まで影絵が表示される。日没時間は毎日違うが、プログラムでセッティングされており、日没時間と同時にライトアップされる。動画はYouTubeにアップし、PRを行っている。クリスマス時期には、いろいろなイルミネーションを行おうと、市が計画中である。まだリニューアル1年目のため、手探りの段階であり、発展の余地があると考えている。

水木しげるロードは25年前にスタートした。もともとは3つの商店街であり、その区間が水木しげるロードとなった。境港は港町ということで戦前からにぎわっていたが、昭和60年代には漁獲量も減っていったことで、活気がなくなってきたため、商店街のお店を閉めるところも多く、いわゆるシャッター街の状況であった。活性化するためにどうしたらよいかと考えたところ、水木しげる先生の出身地だということで、妖怪を用いた取り組みを始めた。最初は地元から、「こんな寂れたところになぜおばけを置くのか」などと、猛反対にあったが、それでも市が商店街の方々に地道な説得を行い、水木しげるロードのオープンとなった。

ブロンズ像は当初、市が全て購入し、水木しげるロードのオープン当初は23体だった。松ヶ枝町の南側にのみ設置されていたが、そのブロンズ像が設置された通り沿いにお客さんが行き、お店を利用しているのを見た北側のお店の方々が、こちらにもブロンズ像を設置してほしいと市に要望し、北側にも設置されてにぎわった。それを見た両側以外のお店も要望を始めといった具合に徐々にブロンズ像は設置数をふやしていき、広がっていった。

2003年にはブロンズ像は83体となり、当初に比べ約3倍となる。水木しげるロードのオープンから10年経ったところで、水木しげる記念館の開館となった。通常、何かの記念館等の会館が建設されて、その周囲にロードができていくものだが、境港の場合には、道が先にでき、それから記念館ができた形になるので、珍しいケースといえる。

水木しげるロードの年間観光客入込客数は、2000年から50万人弱を記録したが、伸び悩む。人を呼び込むためにブロンズ像をふやそう、となったが、市では予算が難しかった。そこで、2004年に観光協会の会長に就任した梶田会長の提案で、1体100万円でブロンズ像のスポンサーを全国公募することとした。100万円という大金が集まるか懸念があったものの、スポンサー希望の方は無事に集まり、作成することとなった。現在、スポンサーによって作成されたブロンズ像は58体である。

商店街の人たちが協力して、ゴミ拾いやブロンズ像を磨くなどを行っている。通りにゴミ箱は設置されていないが、ゴミが落ちていないというのは、良心的な方々が訪れてくれているというのもあると思うが、地域の人々の協力によるもので、意識を持って水木しげるロードを支えていると感じている。

境港に人を呼ぶために、観光協会主催で「妖怪検定」「妖怪川柳コンテスト」等、さまざまなイベント企画を行っている。その際、常に気をつけていることは、プレスリリースをすることである。何かイベントがあるので取材に来てくださいと働きかけ、地元紙、大

手のテレビ局などに行ってもらって、記事にしてもらったことによって、人々の注目が集まり、来てくれるということである。そのため、プレスリリースに注力している。

2005年に映画「妖怪大戦争」が全国公開され、2007年に実写版映画「ゲゲゲの鬼太郎」が公開されたことにより、全国に改めてゲゲゲの鬼太郎という作品が広まり、水木しげるロードにも注目がされた。一番の転機は、2010年に放送されたNHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」である。このドラマで境港市と、安来市が取り上げられたことによって、2010年の年間入込客数は372万人となった。境港市の人口が3万人であるので、人口の約100倍の観光客が訪れた。

2010年をピークとし、観光客は減少が見込まれたため、何か他にもアピールできるものはと考え、米子空港に愛称として「米子鬼太郎空港」とするよう、観光協会会長が提案し採用された。

2018年、市が13億円かけて水木しげるロードのリニューアル工事を行った。車道を片側通行にすることによって両側の歩道を広げ、車道を斜めにすることで車のスピードを出しにくくし、歩行者の安全につながるよう設計をした。樹木は、シダレエンジュという、おどろおどろしい雰囲気を出せるような樹木を植え、モミジやヤマモモを植えたことで、四季のいつ来ても風情が出て、季節によって姿を変える水木しげるロードを演出している。

リニューアルオープンのおかげで、ことし9月の時点で既に入込客数が200万人を突破し、最終的には270万人程度を見込んでいる。

米子鬼太郎空港は、香港便が週2便だったものが週3便に増便され、ソウル便は週6往復化がスタートしており、外国客も多くなっている。米子鬼太郎空港から仁川空港（ソウル）の時間は80分程度と、羽田空港と変わらない時間であるほど近く、温泉やカニ等を目当てに、韓国からの観光客がふえている。また、クルーズ客船が港に来ることもあり、埠頭では、臨時の観光案内所のテントを設けて、案内を行っている。ツアーバスで出かけるお客さんも多いが、フリーで来ているお客さんの対応として、英語、韓国語、中国語を話せる職員やボランティアで観光案内を行う。

今後の方向性としては、水木しげるロードのリニューアル1年目ということで、これから勝負だと考えている。冬にはイルミネーションをするだとか、いろいろなイベントを通してたくさんの人に境港市を訪れてもらえるよう、取り組んでいく。

【質疑応答】

質疑：2004年に栢山会長が会長に就任されるまでは、市長が観光協会の会長だったと聞く。おそらく観光協会にはそこまで力が入っていなかったのではないかと思うが、いかがか。

応答：昔は、観光案内と地元のお祭りを行っていたぐらいで、市から何か依頼があればそれを行うといったものだった。今は、市と観光協会は横に並んでいる。

質疑：夢みなとタワーの管理は観光協会なのか。

応答：そちらの管理は、鳥取県観光事業団である。

質疑：観光協会で管理している館はあるのか。

応答：管理をしているものはない。夢みなとタワー横のみなとまち商店街については、市

から委託を受けて観光協会が行っている。

質疑：観光協会として行っている主なものは、どんなものか。

応答：観光案内、視察受け入れと、イベントの運営である。イベントは、何々実行委員会となっているものについては、ほとんど観光協会が事務局となっている。

質疑：観光協会に市の予算はどれぐらい入ってきているのか。所沢市もこれから観光協会に力をいれていきたいところのため、参考にするため伺いたい。

応答：上と相談して、総会、活動記録をお送りできるようにさせていただきたい。

5 所感

観光客数を維持するため、当初の水木しげるロードの整備に終わることなく、時宜をとらえ、官民一体となって PR 材料の随時投入を行っている。この点は、ところざわサクラタウン開場後の施設運営やまちづくりに大いに参考になるものと感じた。

妖怪ガイドブックの販売は、観光協会の自主財源確保の手段であると同時に、域内に回遊性をもたらす取り組みでもある。ところざわサクラタウンにご来場いただいた方々にどう回遊性をもたらせるかについては、現状の大きな課題の一つであり、こうした手段も傾聴に値する話であった。